

令和5年度 重点目標を達成するための今年度の取り組みと評価結果

重点	目標	主な具体的方策	自己評価	学校関係者による評価	
				評価	主な意見
(1) 人権尊重の精神 および豊かな人 間性を育てる教 育の推進	①人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育において「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」という人権尊重の理念の指導</li> <li>・挨拶の励行</li> </ul>	3. 3	3. 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達を大切に思う心が育っていると思う。しっかりとした声で、相手の顔を見て挨拶ができています。</li> <li>・人間関係の基本である挨拶から真正面にとらえて取り組んでいる。定期的に挨拶運動を「する」側の立場を経験することで、「される」側としても、きちんと挨拶を返す大事さを理解できているのではないかと。</li> <li>・挨拶運動を児童が自主的に行っていて、とても良い。続けてほしい。</li> <li>・子供同士の様子を見て、お互いを大切にする気持ちを表している子供が多くいるように感じた。</li> </ul>
	②道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」の全体計画、年間指導計画に基づき、年間35時間の道徳の時間の充実</li> <li>・道徳授業地区公開講座の充実</li> </ul>	3. 2	3. 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着実に実施していると感じている。</li> <li>・4年生のごんぎつねの授業が1ヶ月ある気がする。そこを深掘りするより、道徳の時間を増やした方が良さそうに思う。</li> <li>・「授業」で道徳観が根付くのではなく、おそらく、日頃学校の中、生活の中での人との関わりで本当の道徳心は育つ。その手本を教員が示せると良い。</li> </ul>
	③健全育成および命を大切に する教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組む</li> <li>・命の大切さについて、人権教育ならびに道徳教育を中心に全教育活動を通して行う</li> </ul>	3. 3	3. 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もいじめの対応に学校全体で取り組んでほしい。</li> <li>・毎月のアンケート実施を評価したい。何か困ったときに、すぐ相談できることは心強い。</li> <li>・アンケート実施や集計、毎月大変だと思う。高学年なら、1日1人1分面談があっても良い。紙だけだと本当のことを書きにくいかもしれない。</li> <li>・子供たちのアンケートから、肯定的な感情で学校生活を送っている子供が大半だが、否定的な回答をしている子供の真意が学校として受け止められると良い。</li> </ul>
(2) 確かな学力を身 に付けさせる教 育の推進	①確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を意図的・計画的・組織的に活用し、児童自らが考える力を高め、主体的・対話的で深い学びにつながる指導の充実</li> <li>・よりよく問題を解決するための資質・能力向上、問題解決型の学習活動、話し合い活動の充実</li> <li>・算数科における少人数習熟度別指導</li> <li>・3, 4年生の年間35時間、ならびに、5, 6年生の年間70時間の外国語活動の実施</li> </ul>	3. 2	3. 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中、大変落ち着いて学習に向かっている姿が見られた。先生方の工夫された指導が大変良い。</li> <li>・個人レベルの合わせた教科ごとのティーチングができていると感じる。</li> <li>・ICTに「使われる」のではなく、既存の従来の授業形式と組み合わせて、良いところをうまく「使っている」と思う。</li> <li>・個人内差などを見て「学力向上」を捉えるとよい。</li> </ul>

	②2020レガシーの推進・継続、体力の向上・健康の保持増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年、障害者理解または国際理解を通して、すべての人が等しく活動できる共生社会について考える活動・体験</li> <li>体育学習における魅力ある教材の準備、運動量の確保、力いっぱい運動することの楽しさや心地よさの体験</li> <li>スポーツテストの結果を受けた体力向上の取り組み</li> </ul>	3. 1	3. 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力が向上していることが分かる。</li> <li>中休み中の校庭内の盛況をみても、体を動かす楽しさを指導できていると思う。</li> <li>旭出学園との交流再開やコロナ明けの体力増強はこれからだと認識している。楽しみながら全力を尽くせるような工夫をお願いします。</li> </ul>
	③小中一貫教育、幼保小連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同研究会や授業観察を通して、課題改善カリキュラムの作成</li> <li>体験授業や部活動体験などによる中1ギャップの解消</li> <li>大泉第二中学校並びに近隣幼稚園・保育園との職員の連携</li> </ul>	3. 1	3. 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣幼稚園・保育園との連携は、今後も深めてほしい。</li> <li>授業について交流しているので、お互いに良いところを取り入れると良い。</li> <li>ギャップの解消も大切だと思うが、なってしまったときの対応策も事前に考えるとよい。</li> <li>小中一貫教育について、目的・プロセス・結果の内容の共有が少ないように感じる。</li> </ul>
	④特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教室指導教員と担任、特別支援教室専門員等との連携</li> <li>特別支援コーディネーターを中心として、特別支援全体会やケース会議等による支援の検討・見直し・充実</li> </ul>	3. 3	3. 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>いずみ教室等、工夫している。特別な知識と経験が求められる領域だと思う。</li> <li>一斉指導が難しい子は、少しの「分からなさ」が発端で、どんどん「分からない」が増えていく。ぜひ「分からない」を解消するために特別支援教育の充実を願う。</li> </ul>
(3) 家庭および地域社会に開かれた学校づくりの推進	①学校評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケート、保護者アンケート、学校関係者評価</li> <li>学校ホームページ、学校便り、学年便り等を通じて、教育活動の紹介</li> </ul>	3. 2	3. 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートを通して現在地を確認しながら進めることは良い。</li> <li>適切に校外へ情報をPRできている。</li> </ul>
	②地域人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の農家、白子川源流・水辺の会との連携を図った調べ学習や発表会を通して、地域との関わりや社会貢献、地域への愛着等を深める教育</li> </ul>	3. 4	3. 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も継続してほしい。</li> <li>白子川の散策や野菜収穫体験など、地域の特色を活かして活動できている。</li> <li>コロナ対策も緩和され、実際に学校が地域に開かれた状態。保護者にも、見てもらう機会が増えてきたのは本当に良かった。</li> </ul>
(4) 特色ある学校づくりの推進	①キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポートを活用して、各行事や係活動、委員会活動等において、目標に向かって努力できるように指導・支援を行う</li> <li>自己肯定感を高め、自己の可能性を追求する態度の育成</li> <li>教員が、児童を認め、励まし、褒める指導の徹底</li> <li>ねりまイクメンパパプロジェクトの協力による5, 6年生対象の「生き方学習」の実施</li> </ul>	3. 1	3. 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験談を聞くことで、将来の夢や希望がもて、仕事すること、そこから得るもの等、いろいろなことを感じることで指導だと思える。</li> <li>自ら企画して、自ら実行する経験、特に同級生を引っ張っていった経験は貴重だと思う。</li> <li>先生から褒められたり励まされたりすることはあるけれど、認められるという感覚はないようだ。伝え方も捉え方も工夫次第だと感じた。キャリアパスポートも、子供たちに認知されるように活動できたら良いと思う。</li> </ul>

②学校図書館の活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館管理員や南大泉図書館と連携した学校図書館の充実</li> <li>・読書旬間、朝読書の時間を設定し、本を読む楽しさを味わわせ進んで読書をする児童を育成</li> </ul>	3. 1	3. 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく整理整頓されている。</li> <li>・読み聞かせの活動など、読書への興味を喚起する活動は良いと思う。アンケート結果からも効果が出ているように見受けられる。</li> <li>・子供たちが「本って面白い」と思ってもらえるような工夫を今後も続けてほしい。</li> <li>・やらないといけなことが多すぎて、読書の時間はなかなか無いのが現状であろう。</li> </ul>
③安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯、防災教育、セーフティー教室、薬物乱用防止教室の実施</li> <li>・事故や災害等への組織的な対応・避難訓練の改善</li> </ul>	3. 1	3. 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防火扉を閉めて、移動経路を確認する訓練など、よく考えていると思う。</li> <li>・先生方の防犯訓練や毎月の避難訓練の実施で充分と思う。</li> </ul>
④食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する知識や食習慣等の食育を通して、健やかな体づくりを推進（給食放送、学級活動、給食指導等）</li> <li>・学校給食において、食物アレルギーのある児童に事故が起きないための共通理解と適切な対応の徹底、ならびに、児童への指導</li> </ul>	3. 0	3. 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー対策を個別に面談されている点が良い。</li> <li>・アレルギー対応もしっかりしているので、このまま続けていくとよい。</li> </ul>
⑤ICT教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の収集や処理、表現や発表等にICT等を活用できるように、3年生以上において情報リテラシーの向上のための時間の確保</li> <li>・ICT機器を積極的に活用し、視覚的に分かりやすい授業の工夫</li> </ul>	3. 2	3. 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の考えや表現の幅ができていることに驚いた。</li> <li>・ICTが日常のものとなった上での取捨選択は、一歩次のステージに進んだと感じた。</li> <li>・先生が黒板に書いている時間が長ければ長いほど、集中力がなくなるし、だらっとしてしまっていた。デジタル教科書の活用で授業がすらすら進んでよいと思う。</li> <li>・電子黒板やICT機器を使うことで、子供たちの「視力」への影響が出ないか。体への影響は心配です。</li> </ul>
⑥環境教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会環境における問題、メディアからの情報等を学びの動機付けとして、地域の自然環境を生かした環境教育を行う</li> </ul>	2. 9	3. 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し難しいテーマだが、ICTなども活かしつつ取り組んでほしい。</li> <li>・白子川に行ったり公園探検に行っていたり、工夫していると思う。</li> </ul>

4段階評価（低1→高4）